

第6学年 図画工作科学学習指導案

題材 やさしさ いっぱい 再発見

指導観

○ 本題材は、最上級生としてのこれまでの自分の行動の中から、自分の成長や相手に対する優しい気持ちが表れたものを想起させ、その気持ちがわかるように画面を構成し、彫りや白黒の対比を工夫し、効果的に木版に表すことがねらいである。

本題材を児童が取り組む中で、次のような価値があると考ええる。

- ① 一人一人が最上級生としての自分の生活を振り返り、自分の成長やよさ、人との心の通い合いのよさに気づき、意欲的に取り組むことができる。
- ② 自分の思いを表すために、人物の大きさ、配置、背景の様子など画面構成を工夫することができる。
- ③ 自分の思いをはっきりと表すために、白黒の対比による効果や彫りの向き、彫刻刀の選び方を工夫して版に表すことができる。
- ④ 製作途中や完成段階でお互いの表したい思いを鑑賞することで、表現の違いに気付いたりそれぞれの表したい思いを感じ取りたりして、表現のよさを味わうことができる。

○ 本学級の児童は、1学期の「わたしの学校」で、絵に描く物の位置関係を考えて構図を工夫したり、色や筆遣いを工夫したりしながら、自分の好きな学校の風景を水彩絵の具を使って絵に表した。

しかし、完成した自分の作品に満足していない児童は、54%もいた。これは自分なりに工夫をしてみてもうまくいかなかったり、どのように工夫すればよいかわからなかったりしたことが原因であった。また、「こんな絵を描きたい」という思いを持たずに絵を描き始めた児童が42%いたことが、学習後の調査でわかった。

このことから、児童が「このような絵を描きたい」という明確な自分の思いを持たないまま学習を進めることは、自分の思いを表現するための技能の工夫をすることが難しく、自分の絵に満足できなかったと考えられる。

また本学級の児童はこれまで、遊ぼう集会や朝活動、休み時間、交流給食などで1年生との関わりを持ち、そのときの自分の気持ちを日記に書き綴っている。自分から進んで1年生に関わっていく児童もいれば、どうしたらよいか迷いながら接している児童もいる。

○ 本題材の指導と評価にあたっては、まず、これまでの最上級生としての自分の行動がわかる写真やビデオ、1年生からの手紙などによって自分の行動や気持ちを振り返りながら、絵に表したい気持ちを明確にしていく。

次に、自分の気持ちがよく表れるようにするための画面構成、白黒の対比、彫刻刀による彫りの違いなどがわかる資料を提示する。活動が滞っている児童に対しては、対話をしながらその思いを理解し、個に応じた支援を行っていく。刷りの段階では、手順を示し、児童がグループで協力し合いながら活動できるような場を設定する。

作成途中や完成した時点で作品を鑑賞する活動では、自分や友達の表したい思いを感じ取りながら、作品のよさを味わうことができるようにする。

目標

○ 自分の思いを明確にし、木版で表す表現活動を楽しむことができる。

(造形への関心・意欲・態度)

○ 自分の思いに合わせて、画面構成や白黒の対比を考えることができる。

(発想や構想の能力)

○ 製作の手順を見通し、彫る向きや彫刻刀の選び方を工夫し、白黒の効果を考え工夫して表すことができる。

(創造的な技能)

○ 表したい思いを読み取りながら作品のよさを感じとることができる。

(鑑賞の能力)

題材における指導事項・評価規準・指導方法（全10時間）

	学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体的評価規準	指導事項	指導方法
自分の気持ちを明確にする	1. これまでの自分の活動を振り返り、絵に表したい気持ちを明確にする。 (1時間) (本時)	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いを木版に表していくことに関心を持つ。(関) ・ 自分の活動の中から自分が「6年生だ」と実感した時を選ぼうとしている。(発) 	○ 一人一人が絵に表したい気持ちを見つけ、それを文章で表すこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの活動の様子がわかるビデオや写真を見せ、最上級生としての自分のよさや優しさが一番表れているところを選ばせる。 ・ 1年生に授業にきてもらい、6年生に対する気持ちを述べてもらう。
画面を構成し下絵を線描きする	2. 自分の表したい気持ちをもとにメモスケッチやアイデアスケッチをし、下絵を描く。 (2時間)	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ アイディアスケッチをかき、その中から自分で版に表す場面を選ぼうとしている。(関) ・ 絵に表したい気持ちがわかるような画面構成を考えている。(発) ・ ヒント資料などを参考に自分の表したい思いがはっきり表れるように描いている(発) ・ 木版画の白黒表現を生かし、自分の表したい思いが明確になるように中心となるものと周りの様子を強調したり省略したりして表している。 	○ 自分の気持ちが表れるように人物の配置や大きさの変化を考え、自分や表したい中心となるものを画面のどの位置に置くとはっきりするか工夫して画面を構成すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの自分の活動の様子が分かる写真を用意しておく。 ・ 画面構成の資料を提示して、大きさや重なりなどを工夫できるようにする。

	3. 版木に表す部分を決め、下絵を版木に写し、白黒のバランスを考える。 (2時間)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 白黒のバランスや線の太さも考えながら写している。(技) 	<ul style="list-style-type: none"> 白黒の違いによって与える効果の違いを学び、白黒を版であらわすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 版木に写す部分を決定するための枠を用意する。 版木にカーボン紙で反転写する。 白黒のバランスを考えさせる。
版に表す	4. 自分の思いがはっきりと表れるための効果的な彫り方を考える。 5. 彫りの違いを確かめながら、工夫して彫刻刀で彫る。 (2時間)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀の違いによる効果的な表現を考えながら彫り方を考えている。(発) 三角刀、丸刀、平刀、切り出し刀などによる効果的な彫り方を考えながら彫っている。(技) 	<ul style="list-style-type: none"> 彫りの効果や白黒のバランスを考えて、彫り方を考えること。 どの彫刻刀でどんな彫り方をすれば効果的かを考えながら彫り進めていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀による彫りの効果や白黒のバランスを考えさせるようにする。 彫刻刀の安全で正しい使い方の指導をする。 様々な彫りの効果を試すための小さな版木や資料を用意しておく。
	6. 友達と協力して刷り具合を確かめながら丁寧に刷る。 (2時間)		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 用具を正しく使って友達と協力して刷っている。(技) 	<ul style="list-style-type: none"> 刷りの感を確かめながら刷っていくこと。
鑑賞する	7. 自己評価した作品を展示して、お互いの作品を鑑賞する。 (1時間)		○	<ul style="list-style-type: none"> 表したかった思いと彫りの効果などの工夫とを関連させながら自分の作品を紹介することができる。 友達の作品に込められた思いを感じ、そのよさを見付けることができる。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表したかった思いと画面構成や彫り方の工夫とを関連させた自己評価をすること。 自己評価をし、またお互いの表したかった思いを聞き、表現のよさを考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表したかった思いは何なのか、そのためにどんな工夫をしたのかを伝え合い、互いに認め合う。 互いの思いを伝え合いながらよさを認め合える鑑賞カードを用意する。

本時目標

- 自分の思いを木版に表すことへの意欲を持つことができる。

(造形への関心・意欲・態度)

- 最上級生としての自分の行動や気持ちを振り返りながら、自分が表したい気持ちを明確にすることができる。

(発想や構想の能力)

授業仮説

これまでの自分の活動を振り返り、自分の気持ちや行動を言葉で表現することで、児童は自分が絵に表したい気持ちを明確にすることができるであろう。

- これまでの自分の活動の様子がわかる写真、ビデオの提示や日記の読み返しを行い、1年生と交流する場を設定する。
- 自分が「6年生だ」と一番感じた時の様子を思い出し、なぜその時を選んだかを考え、文章に書かせる。

準備

- 学習プリント
- これまでの活動を振り返るための写真、ビデオ
- 1年生からの手紙
- これまでの自分の気持ちを書いた日記
- 参考作品
- 構図資料

本時の指導と評価の考え方

本時は、これまでの最上級生としての自分の活動がわかる写真やビデオ、1年生との交流のもとに、自分が絵に表したい気持ちを明確にすることがねらいである。

まず、自分の行動や気持ちを振り返る。手立ての1つ目として、自分たちが1年生の時の入学式の写真を見せる。自分が1年生の時に、6年生からどんなことをしてもらい、またどんな気持ちであったかを思い出すことで、今の自分の行動と比較させ自分の成長に気付かせたい。

手立ての2つ目としてこれまで自分が最上級生として行動してきた様子がわかる写真やビデオを見せる。これにより、児童は自分がやってきたことを振り返り、そこでの体験を通じた自分の心の動きや自分の行動を受けた相手の心情まで考えることができるだろう。また日頃書いている日記を読むことで自分がこれまでに感じてきたことを再度見つめ直し、自分の心が揺れ動いた場面を想起させることができると考える。

手立ての3つ目として、1年生に教室に来てもらい、6年生に向けて書いた手紙を読んでもらう。手紙には、6年生のどんなところが好きか、どんなときに嬉しかったかを書いてもらっておく。直接1年生に手紙を読んでもらうことで、自分の行動を受ける1年生が自分をどう思っているのか、自分の行動をどう感じているのかを知ることができる。相手からの反応を得ることで自分や自分の行動が人から認められていることを実感し、絵に表したい気持ちを明確にする手助けになると考える。

次に、自分が6年生だと一番強く感じた時の様子を思い浮かべ、なぜその時を選んだのかを考えて文章に書く。こうすることで、自分の絵に表したい気持ちを明確にしていく。自分の気持ちをはっきりとさせることができていない児童に対しては、資料の提示や対話による個別指導をし、絵に表したい気持ちを明確にできるようにしていく。

最後に、本時の活動を振り返る。自分の気持ちをよりはっきりと表すためには、画面構成の工夫が必要であることに気付かせ、次時の活動への意欲につなげることができるようにする。

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学習活動	具体の評価規準	指導事項	指導方法
導入	<p>1. 自分たちの入学式の写真を見て当時の自分を思い出し、今の自分と比べる。</p> <p>2. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて 自分が「6年生だ」と一番強く感じたときの様子や気持ちを思い浮かべよう。</p> </div>	<p>・ 提示された写真を見て、1年生の時に6年生からしてもらったことやその時の自分の気持ちを想起し、今の自分と比べている。</p> <p style="text-align: right;">(関)</p>	<p>○ 1年生の時と今の自分を比べ、自分の成長に気付けるようにすること。</p>	<p>・ 1年生の時の自分を想起できるように、入学式の写真を見せる。</p>
展開	<p>2. これまでの自分の行動を振り返る。</p> <p>(1) 写真やビデオを見て、自分の行動や気持ちを思い出す。</p> <p>(2) 1年生から手紙をもらい、感想を述べる。</p> <p>(3) これまでの日記を読み直し、自分の行動や気持ちを思い出す。</p>	<p>・ 写真やビデオ、自分の日記などから自分の行動や気持ちを振り返っている。</p> <p style="text-align: right;">(関)</p>	<p>○ そのときの自分の気持ちを振り返ること。</p> <p>○ 気持ちが表れている動作に着目しながら見ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目の向き ・ 口の形 ・ 手の形、位置 ・ 顔、体の傾き ・ 1年生との距離 <p>○ 1年生は自分のどんな行動に、どんな気持ちを持っているかを考えること。</p> <p>○ そのときの自分の気持ちを振り返ること。</p>	<p>・ これまでに書いていた日記を渡しておき、その時の自分の気持ちを振り返ることができるようにする。</p> <p>・ 自分たちに向けられた1年生の気持ちに気付かせるために、1年生に手紙を書いてもらっておく。</p> <p>・ 1年生の気持ちを実感できるようにするために、1年生に実際に教室に来てもらい手紙を読んでもらう。</p> <p>・ 事前に日記に目を通しておき、相手への気持ちが表れている所や自分の成長に気付いている所に赤線を入れて</p>

	<p>3. 「6年生だ」と一番強く感じたときの様子や気持ちを思い浮かべ、文章に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木版に表していくことに関心を持ち最上級生としての自分の行動から一番心に残った時を選ぼうとしている。(関) ・ なぜ「6年生だ」と一番強く感じたのかそのわけを具体的に書いている。(発) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「6年生だ」と一番強く感じたときを選ぶこと。 ○ そのときを選んだ理由を、気持ちや様子を思い浮かべながら具体的に書くこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな気持ちで ・ どんなことを ・ 目の向き ・ 口の形 ・ 手の形、位置 ・ 顔、体の傾き ・ 1年生と自分の距離 ・ そのときの1年生の様子 	<p>おく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 1年生からの手紙に事前に目を通して1年生が6年生にしてもらったことでどんなことがうれしいと思っているかを把握しておき、選べていない児童に対して補足説明する。 ※ 様子を思い浮かべられない児童に対しては、これまでの活動がわかる写真や人との関わりが描かている参考作品を見せ、具体的なイメージをつかめるようにする。 ※ 選んだわけが書けていない児童に対しては、児童の気持ちを個別に聞いて教師が助言していく。 ・ 早く終わった児童には、アイディアスケッチをさせる。
<p>終末</p>	<p>4. 本時学習を振り返り、次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちを書いた文章を見直し、次時の活動への見通しが持てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が書いた文章を読み、絵に表したい気持ちを書けているか見直すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動をふり返らせ、次時に向けて見通しを持たせる。